

ミツカン水の文化センター

working paper

整理番号 MWP2004-000

タイトル **東京神田川探訪**

提出日 2004年09月27日

ワーカー ミツカン水の文化センター 賀川組

氾濫という「共通の敵」に対する危機感を土台にした、川を媒介とした共同体意識は、その敵が無くなるとともに薄れてきました。共同体意識の欠落がもたらした現代都市生活の諸問題を解決するために、求心力のある新たな目標を作ってみたらどうか、というのが我々の提案です。「里川」によってもたらされる結束は、ネガティブに危機的な敵を想定するのではなく、ともに恩恵を享受するというポジティブなものであることが、持続可能という観点からも重要です。

神田川に関してはすでに様々な取り組みがなされてきたので、資料が豊富にあります。神田川に流れ込む小さな支流をモデルケースにして、共同体意識の再構築の可能性を探ります。

仮説 流れを使うこと、利用することが「里川」である

目的 都市部における「細支流域共同体」の可能性を探る

「細支流域」＝分水嶺でわける数軒から数十軒の住宅で構成する「水の流れ」を中心とした共同体
この細支流域での水利用を考える

各戸で貯水した雨水を少しずつ放流し、その流れを集めた水の利用を考える
水利用は、各戸にエネルギーなどのかたちで（冷却、暖房、電気）還元され、
毎日、見たり楽しんだりすることができる上、
普段は表面に現れない災害時（氾濫、火事、渇水など）機能を満たす

調査の注目点と方法

治水 雨水の排出目的としての神田川

広流域と細支流域の決定

隣接広流域の確認 2万5千分の1の地図

細支流域の分水嶺の決定 メートル単位の等高線が入った地図

分水嶺によらない流域も考慮する 下水道マップの確認 地下水脈の流域推測

流量の計算

面積と降水量 降水量年間平均と集中豪雨 晴れの日と雨の日の流量比較

洪水の記録と 舗装や下水道完備などのインフラの変遷と現状把握

役所、資料館、博物館、NPO、書籍、聞き取り

利水 雨水排出以外の神田川の機能、魅力（過去から現在まで）

景観を目的とした空間づくりの有り様 現状把握

「活きた景観」の定義

戸建住宅、集合住宅における雨水利用の実際

水の二次資源利用の可能性